

# 長野東高校演劇部 2012年ダイアリー

## \* 2012年4月 1年生5名入部 2年生5名、3年生2名の計12名でスタート

1年生が5名入部しました。男子も1名入部して計3名になりました。2・3年生と合わせて12名の大所帯となりました(2名が兼部です)。

## \* 2011年5月 2・3年生5名が長野市民劇場の会員になりました

基礎練習で「ハムレット」の読み合わせを取り入れました。1年生の男子は運動部に入りたいということで残念ながら退部してしまいました。プロのホンモノの芝居を観て力をつけようという顧問の提案もあり、2・3年生の希望者5名が長野市民劇場の会員になり、初めての例会(無名塾「ホブソンの婿選び」)を観劇しました。終演後はバラシも手伝い勉強になりました。

## \* 2012年7月 東雲祭:「帰って来たサバの缶詰」(作/清水信一)上演

顧問の清水先生の4年ぶりの書きおろし脚本「帰って来たサバの缶詰」を上演しました。4年前に関東大会まですすんだ「サバの缶詰」の続編です。小学4年生だった幹太が、高校1年生になって廃線になった木島線の四ヶ郷駅に帰ってきました。きゅうりババアも再登場です。大道具は4年前に使ったものを作りなおし、さらにバージョンアップしました。



## \* 2012年8月 北信大会:(千曲市あんずホール)

### 「帰って来たサバの缶詰」(作/清水信一)上演 金賞受賞 長野県大会出場決定



文化祭から1か月。地区大会での上演にあわせて、稽古の時点から駅のホームのセットを大会と同じ大きさにしようということで、ビールケース15個で作っていたセットを、42個に増やし、高さも倍になりました。駅名表示板も新たに作りなおしました。直前の通し稽古で60分をオーバーすることがあり、場面ごとに細かく時間設定をし、舞台監督を中心にチェックする体制を整えました。

本番は緊張しましたが、思い切った芝居ができました。その結果、金賞を受賞し、3年ぶりの県大会出場を決めることができました。



## \* 2012年10月 県大会出場校打合せ会

県大会の会場となるキッセイ文化ホール(県松本文化ホール)で出場校打合せ会がありました。発表会場となる大ホールは地区大会で使っているホールと比べてはるかに大きく、声が届くかどうか心配になる

ほどでした。抽選の結果、発表はイの一番の【11月3日(土) 9:30~10:30】となりました。先陣を切って、大会を盛り上げたいと思います。

## \*2012年11月 長野県大会:(キッセイ文化ホール)

### 「帰ってきたサバの缶詰」上演(作/清水信一) 優良賞受賞

※創作脚本賞 優良賞受賞

8月に県大会出場が決まってから3カ月。この間、9月には中学生体験入学のための30分公演を実施しました。10月になり、2年生の修学旅行が終わってから本格的に大会準備にかかりました。諸事情から幹太役が交替するなどの紆余曲折もありましたが、満足できる上演になったと思います。結果は優良賞でしたが、他校の優れた舞台に刺激を受けて来年も県大会の舞台を踏みたいとの思いを強くして帰ってきました。



## \*2013年2月 長野市民演劇祭:(長野市女性会館しなのき)

### 「祭よ、今宵だけは哀しげに~銀河鉄道と夜~」上演

市民演劇祭賞受賞

市民演劇祭では、高校演劇では定評のある『祭よ、今宵だけは哀しげに』を上演しました。宮沢賢治の『銀河鉄道の夜』をモチーフにし、大人への階段をのぼろうとする少年の物語で、孤独な少年ジョバンニと親友カンパネルラが“一番の幸い”を探して、美しく哀しい夜空の旅に出かけていくというものです。水面を表現するために、プラスチックの衣装ケースに水を張り、鏡を入れて水平線幕に映し出してみたり、発光ダイオードにLED電球をつないでホタルの揺れる明かりを表現しようとしてみました。リハーサルではまずまず雰囲気が出た感じでしたが、本番の舞台では期待していたほどの成果にはつながらず残念でした。本番間近になって役者のひとりがインフルエンザにかかりその後も体調を崩し10日近く稽古に参加できませんでした。演出も体調を崩し休みがちになり、全員そろったのはリハーサルの前日という綱渡り状態でした。その分残りのメンバーが危機感を抱き稽古に励み、舞台はそれなりに満足のいくものとなりました。



▲ 衣装ケースに水を張り鏡を沈めて、スポットライトを当てて水平幕に反射させ水面を表現しようとしてみました(左)。発光ダイオードにLED電球をつないでホタルのあかりを表現してみました(右)

